

タイ北部における女性の宗教的地位に関する研究 —プロテスタント教会の観点から—

藤原 佐和子

同志社大学大学院神学研究科 博士課程

緒 言

「女性は受戒／按手 (ordination) を受けられるか」という問いは、ある宗教における異性愛的家父長制の影響を計る上で欠くべからざるものである。先行研究において、タイの上座部仏教における公認の女性聖職者を求める比丘尼サンガ復興運動の本格化は、タンマナター比丘尼が指導的役割を担う 1990 年代以降のことであると見られているが、一方、タイのプロテスタント最大教派であるタイ・キリスト教団 (Church of Christ in Thailand、以下 CCT) において女性牧師の按手が開始されたのは 1960 年代であった¹⁾。それだけでなく、ジョン・C・イングランドによっても示されているように、女性神学者であるプラカイ・ノントワシー (Prakai Nontawasee) が 1970 年代より早くもタイを代表する神学校 (現パヤップ大学マクギルバリー神学校、以下 MCD) において指導的役割を与えられたのは何故なのであろうか²⁾。第二次世界大戦以後の脱植民地化の動きを背景に形成された第三世界神学者エキュメニカル協議会 (EATWOT)、アジア・キリスト教協議会 (CCA) に女性部門が整備され、男性キリスト者による検閲を受けない表現、思想の分かち合いの場として *In God's Image* 誌が創刊された 1980 年代以降においては、「アジアの女性たちの神学」(Asian women's theologies) と呼ばれる試みが本格的に展開されるようになった。しかしながら、東南アジアにおいて唯一植民地支配を受けた歴史を持たないタイと、アジア諸国に対する侵略の歴史を持つ日本においては、女性キリスト者の理論や実践に関する研究が例外的に少ないこと³⁾、19 世紀末期から長きにわたってアメリカ長老派教会の宣教師たちが教会に対する影響力を維持するために神学研究を志すタイのキリスト者はアメリカで博士号を取得する傾向が強いことなどから、タイのプロテスタント教会における女性の宗教的地位に関する研究は十分に行われてこなかった。

方 法

この研究では、プロテスタント信仰の中心地であるタイ北部にて神学教育に携わり、アジア諸国の女性キリスト者たちとの分かち合いを目的として共通語としての英語による記述を行ってきた 3 名の女性神学者を取り上げた。先行研究においてタイの女性神学者の代表的存在とされるノントワシーについては 1970 年代後半から 1990 年代にかけて発表された論攷を収集・分析した。現在はメトロポリタン州立大学にて宗教学とエスニックスタディーズを教えているナンタワン・ブーンプラサートルイス (Nantawan Boonprasat Lewis) については、資料数の多さから 1980 年代に発表された 3 本の論攷のみを取り上げた。現在の MCD にて牧会カウンセリングを講じる現在のタイの代表的な女性牧師であるチュリーバン・スィーソントーン (Chuleepran Srisoontorn) については、1990 年代半ばに著された博士論文を資料とした。周辺研究として、チェンマイ大学社会学部女性学研究センターにて収集した資料をもとに、特に 1970 年代のタイの女性運動 (フェミニズム) の展開について考察した。助成期間中の 2 度の渡航では、主としてスィーソントーンの活動に同行して、教会、学校、留置所、孤児院などを訪れ、主として女性キリスト者たちからの聞き取りを行った。

結 果

そこから得られた結果は、この研究の着眼点が、アメリカのフェミニスト神学が初期においてカトリック教会における女性司祭の問題を熱心に取り上げたことを背景とする類推や、聖職者に対するエリート主義的な思い込みをタイ北部の「女性神学者」に読み込む可能性があったことを明らかに示すものであった。

1. プラカイ・ノントワシー

1926 年にチェンマイ県の有力で裕福なキリスト者の

家庭に生まれたノンタワシーは、チュラロンコーン大学を卒業後、シカゴのマコーミック神学校に留学し、キリスト教教育の修士号を取得した。帰国後の彼女は、MCDにて教員を務めるとともに、CCT、CCA、世界教会協議会(WCC)においても活躍し、優れたリーダーシップを発揮した人物である。彼女は厳密には按手を受けていないと考えられているが、キリスト教教育者(Christian educator)として尽力し、1970年代以降のエキュメニカル運動において初めて国際的発言力を持ったタイ人女性キリスト者であったと言える。彼女の論攷においては、EATWOT女性委員会によって提唱されている「物語を聞き取ること」「社会的分析」「神学的考察」という学際的プロセスが早くも実践されていたことを確認できた。

2. ナンタワン・ブーンプラサート-ルイス

パヤオ県の仏教徒の家庭に生まれたブーンプラサート-ルイスは、タイ人の女性神学者として最も頻繁に言及される人物であり、タイ人として初めてプリンストン神学校にて博士号を取得した女性キリスト者である。彼女は帰国後にMCDの教員となるが、男性教員からの強い反発を受けて間もなく退職し、1980年代にアメリカに移住していた。同時期の彼女の論攷では、「アジアの女性たちの神学」がステレオタイプな性別役割が支配的な社会において低い自己評価や無力感に苦しんでいる女性たちの霊的な癒しを探求し、「解放」「十全な人間の尊厳」を目指すものであることが示された。彼女は、アジア諸国における急速な変化によって女性たちが教育や職業訓練を受けるようになり、従来男性たちのものとされてきた様々な性質を身につけるようになってきたことに注目するとともに、不公平な開発、資本主義、家父長制がそのような機会を十分に得ることのできなかった女性たちの労働に対する悪質な搾取につながってきたことについて、特にセックスツーリズムを例として批判している。聞き取りによれば、ブーンプラサートもまた教会において牧師として奉仕する経験を持たず、研究者、学者(scholar)としての性格を強く示す女性神学者であることが分かった。

3. チュリーパン・スィーソントーン

同じく仏教徒の家庭に生まれ、ブーンプラサート-ルイスの後輩であったスィーソントーンは、CCTにて按手を受けた牧師(pastor)であり、ボストン大学にて実

践神学を学んだ神学博士である。彼女の初期思想においては、改宗者の獲得を目的とした19世紀の宣教師によるエヴァンジェリズムがタイ北部の文化と共同体を否定したこと、それが現代のタイの牧師と信徒との間にさまざまな意味においての距離(隔たり)を生じさせていることが批判された。彼女は留学中、アメリカのキリスト教のあり方を極めて個人主義的と感じたことをきっかけに、タイ北部の文脈化神学の必要性を意識するに至った。彼女によれば、近年、牧会ケア(pastoral care)の担い手は牧師個人に限定されず、キリスト者の共同体そのものが担うようになってきており、ケアの与え手と受け手はますますタテ型からヨコ型へと移行しつつある。しかし、現在でも尚、そのようなレベルで精力的な活動を行う女性牧師は、男性キリスト者の保守的なリーダーたちからの反感を買うことも決して少なくないことが現地において観察された。

考 察

現地を繰り返し訪れるなかで明らかとなってきたのは、タイ北部の女性キリスト者たちにおいて女性牧師の按手はさほど大きな問題として捉えられておらず、むしろ、「按手を受けているか否か」にかかわらず、牧師と信徒がそれぞれの召命感に基づき、さまざまな形で具体的な奉仕を行っていることこそが重要視される傾向があるということである。宣教初期において、アメリカ長老派の宣教師たちがアジア諸国と比較して自由で、健康で、活発であったタイ北部の女性たちに驚き、改宗者の女性たちを教育して「教師」を養成したことなどを背景として、プロテスタント教会においては女性が神学校の教員となることはさほど抵抗なく受け入れられているようである。しかし、神学校の外においてリーダーシップを発揮することが容認されるのは、その者が有力な家庭や階級の生まれである場合に限られるという傾向は否めない。興味深く感じられるのは、タイの女性学研究においてその社会と文化が行動志向(action-oriented)であることを理由として、1970年代以降のタイのフェミニズムもまた実践レベルにおいて容易く見出され得るとされていることと、タイ北部の女性キリスト者たちが具体的な奉仕の働きを重視する傾向との間に見られる類似である⁴⁾。プロテスタント教会における女性の宗教的地位を研究するにあたって「按手」の問題は一つの鍵となる重要な概念であるが、今後もタイ北部を事例とする研究に取り組むにあたっては、牧師と信徒の双方を含む意

味での「ミニストリーにかかわる女性キリスト者たち」(Christian women in ministry)に広く注目していく必要があるだろう。

要 約

この研究では、タイ北部のプロテスタント教会における女性の宗教的地位について考察するために、プロテスタント最大教派であるタイ・キリスト教団 (Church of Christ in Thailand)、パヤップ大学マクギルバリー神学校の位置するチェンマイにおいて、1970年代以降のエキュメニカル運動や「アジアの女性たちの神学」の試みを背景として英語で記述されたプラカイ・ノンタワシー、ナンタワン・ブーンプラサート・ルイス、チュリーパン・スィーソントーンの論文集を収集・分析することにより、彼女たちの思想が「物語を聞き取ること」「社会的分析」「神学的考察」という学際的プロセスによって自らの文脈からアジア諸国の女性を取り巻く状況を見つめるものであることを確認した。現在のタイを代表する女性牧師の協力により、学校、留置所、孤児院などにおける活動に同行する機会を得て、主として女性キリスト者たちから女性の宗教的地位に関する聞き取りを行うなかで次第に明らかとなってきたのは、タイ社会において宗教的マイノリティとして生きる彼女たちにおいては「按手を受けているか否か」ということよりもむしろ、牧師と信徒との別を問わずにキリスト教信仰に基づくさまざまな場における奉仕の実際的な働きに関心が向けられているということである。

謝 辞

本研究は、公益財団法人三島海雲記念財団の平成23年度学術研究奨励金により遂行することができました。今後の研究への更なる意欲を賜りましたことを併せて深く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 山下明子：岩波キリスト教辞典（大貫隆、名取四郎、宮本久雄、百瀬文晃編）、pp. 712-713、岩波書店、2002。
- 2) John C. England: *Asian Christian Theologies: A Research Guide for Authors, Movements, Sources*, pp. 521-522, Orbis Books, 2004.
- 3) Kwok Pui-lan: *Introducing Asian Feminist Theology*, p. 40, *Sheffield Academic Pr*, 2002.
- 4) Amara Pongsapich, in Virada Somsawasdi & Sally

Theobald: *Women, Gender Relations and Development in Thai Society*, 1, p. 33, *Women's Studies Center, Faculty of Social Science*, Chiang Mai University, 1997.

一次資料

Nontawasee, Prakai. 1975. "The Japanese Image in Thailand." *Japan Christian Quarterly*, Vol. 41, No. 2 (Spring 1975), Christian Literature Society (Kyo Bun Kwan,) 68-71.

— 1977. "To Seek in Order to Give: Insiders, Not Outsiders." In S. J. Samartha (ed.), *Faith in the Midst of Faiths: Reflections on Dialogue in Community*, World Council of Churches, 95-97.

— 1980. "Liberation: The Thai Christian View." *Reformed World*, Vol. 36, No. 2., World Alliance of Reformed Churches, 67-71.

— 1987. "Confrontation of Phii-ka and Christianity: A Case Study." *International Review of Missions*, 76, 301 (January 1987) World Council of Churches, 82-85.

— 1989. "Mission in Mutual Solidarity." *In God's Image*, December 1989, Asian Women's Resource Centre for Culture and Theology, 33-35.

— 1992. "Reflection on the WCC Draft 'Economy as a Matter of Faith.'" *Reformed World*, Vol. 42, No. 3., World Alliance of Reformed Churches, 101-105.

— 1999. "Jesus Empowering Women." *PTCA Bulletin*, Vol. 12, No. 1&2 (June & December 1999), Programme for Theology & Cultures in Asia, 8-9.

Boonprasat-Lewis, Nantawan. 1982. "In Search of an Integral Liberation: A Study on the Thai Struggle for Social Justice from a Christian Perspective—The Contemporary Thai Farmers' Movement as a Case Study." Ph.D. Dissertation, Princeton Theological Seminary.

— 1985. "An Overview of the Role of Women in Asia: A Perspective and Challenge to Higher Education", in *East Asia Journal of Theology*, Vol. 3, No. 2, 139-146.

— 1986. "Asian Women Theology: A Historical and Theological Analysis," in *East Asia Journal of Theology*, Vol. 4, No. 2, 18-22.

— 1987. "The Connection of Uneven Development, Capitalism and Patriarchy: A Case of Prostitution in Asia," in *Concilium: Theology in the Age of Renewal*, Vol. 194, 64-71.

Srisoontorn Persons, Chuleepran. 1995. "A Contextual Approach to Pastoral Care and Counseling in Northern Thailand," Th.D. dissertation, Boston University.

Srisoontorn-Persons, Chuleepran. 1997. "Thai Resources for Pastoral Counseling," *PTCA Bulletin*, Vol. 10., December, 14-18.